

容量分析用標準物質

正 誤 票

区分	位置	誤	正
本体	7.1 e) 2.3)	0.5 mol/L 硝酸銀溶液で滴定を行う ⁽¹⁾ 。…。	0.1 mol/L 硝酸銀溶液で滴定を行う ⁽¹⁾ 。…。
	7.1 e) 8.2)	溶存酸素を含まない水 100 mL を…。	溶存酸素を含まない水 150 mL を…。
	7.1 f)	<p>純度は、…。W_1 及び W_{01} は、…。</p> $P = P_0 \times \frac{\sum_{i=1}^n W_i}{\sum_{i=1}^n W_{0i}}$ $W_1 = \frac{T_1}{m_1}$ $W_{01} = \frac{T_{01}}{m_{01}}$ <p>ここに、P : 試料の純度 (質量分率%) P_0 : 基準物質の純度 (質量分率%) W_1 : 試料 1 g 当たりの滴定相当量 (g) W_{01} : 基準物質 1 g 当たりの滴定相当量 (g) T_1 : 試料の滴定量 (g) T_{01} : 基準物質の滴定量 (g) m_1 : 試料の質量 (g) m_{01} : 基準物質の質量 (g) n : 測定回数</p>	<p>純度は、…。W_i 及び W_{0i} は、…。</p> $P = P_0 \times \frac{\sum_{i=1}^n W_i}{\sum_{i=1}^n W_{0i}}$ $W_i = \frac{T_i}{m_i}$ $W_{0i} = \frac{T_{0i}}{m_{0i}}$ <p>ここに、P : 試料の純度 (質量分率%) P_0 : 基準物質の純度 (質量分率%) W_i : 試料 1 g 当たりの滴定相当量 (g) W_{0i} : 基準物質 1 g 当たりの滴定相当量 (g) T_i : 試料の滴定量 (g) T_{0i} : 基準物質の滴定量 (g) m_i : 試料の質量 (g) m_{0i} : 基準物質の質量 (g) n : 測定回数</p>
7.2 d)	<p>純度は、…。P'_1 は、…。</p> $P = \frac{\sum_{i=1}^n P'_i}{n}$ $P'_1 = \frac{W \times 0.59120}{m} \times 100$ <p>ここに、P : ふっ化ナトリウムの純度 (質量分率%) P'_1 : 試験ごとのふっ化ナトリウムの純度 (質量分率%)</p>	<p>純度は、…。P'_i は、…。</p> $P = \frac{\sum_{i=1}^n P'_i}{n}$ $P'_i = \frac{W \times 0.59120}{m} \times 100$ <p>ここに、P : ふっ化ナトリウムの純度 (質量分率%) P'_i : 試験ごとのふっ化ナトリウムの純度 (質量分率%)</p>	

区分	位置	誤	正
本体	7.4 d)	<p>純度は、…。</p> <p>なお、P'_1は…。</p> $P = \frac{\sum_{i=1}^n P'_i}{n}$ $P'_1 = \frac{D+R}{m} \times 100$ <p>ここに、P：銅の純度（質量分率%）</p> <p>P'_1：試験ごとの銅の純度（質量分率%）</p>	<p>純度は、…。</p> <p>なお、P'_iは…。</p> $P = \frac{\sum_{i=1}^n P'_i}{n}$ $P'_i = \frac{D+R}{m} \times 100$ <p>ここに、P：銅の純度（質量分率%）</p> <p>P'_i：試験ごとの銅の純度（質量分率%）</p>
	8.1 a) 3.4)	蒸留フラスコ A 中の残液 [又は、8.1 b)の蒸留フラスコ A 中の残液] …。	蒸留フラスコ A 中の残液 [又は、8.1 b) 3.5)の蒸留フラスコ A 中の残液] …。
	8.2 c)	JIS K 0115 の 8. (検量線法) によって…。	JIS K 0115 の 8.1 (検量線法) によって…。
	9.1 b) 4)	JIS H 1111 の 6. …又は 7. (誘導結合プラズマ発光分光法) による。	JIS H 1111 の 6. …又は 8. (水酸化鉄共沈分離誘導結合プラズマ発光分光法) による。
	9.2 b) 9.2)	8.3 b)の…。測定波長は 253.3 nm とする。	8.3 b)の…。測定波長は 283.3 nm とする。
	9.3 b) 16.3)	8.1 b)の…。残液は b)の試験に用いる。	8.1 b)の…。残液は 6)の試験に用いる。
	9.4 b) 8.2)	<p>検量線用溶液の…。ジイソプロピルエーテル 25 mL を加え約 5 分間振り混ぜた後、放置する。</p> <p>分離した有機層を全量フラスコ 25 mL にとり、…。この場合、測定波長は 565 nm 付近の波長とする。</p> <p>注⁽¹⁷⁾ 硫酸セリウム (IV) 溶液 (30 g/L) の調製 …, 冷却する。</p> <p>分離した有機層をとり、ローダミン B 溶液 (0.2 g/L) ⁽¹⁸⁾ 5 mL を加えて、約 2 分間振り混ぜて放置する。</p> <p>注⁽¹⁸⁾ ローダミン B 溶液 (0.2 g/L) の調製 …, 冷却して使用する。</p>	<p>検量線用溶液の…。ジイソプロピルエーテル 25 mL を加え約 5 分間振り混ぜた後、放置する。</p> <p>分離した有機層をとり、ローダミン B 溶液 (0.2 g/L) ⁽¹⁸⁾ 5 mL を加えて、約 2 分間振り混ぜて放置する。</p> <p>分離した有機層を全量フラスコ 25 mL にとり、…。この場合、測定波長は 565 nm 付近の波長とする。</p> <p>注⁽¹⁷⁾ 硫酸セリウム (IV) 溶液 (30 g/L) の調製 …, 冷却する。</p> <p>注⁽¹⁸⁾ ローダミン B 溶液 (0.2 g/L) の調製 …, 冷却して使用する。</p>
	9.5 b) 9.3)	備考 試料側溶液の濁りが…, 5 ppm 以下である。	備考 試料側溶液の濁りが…, 質量分率 0.001 %以下である。
	表 8 の項目の欄	銀 (Ag) 質量分率 ppm	銀 (Ag)
	9.9 b) 6.3)	8.3 b)…。測定波長は 324.8 nm とする。	8.3 b)…。測定波長は 589.0 nm とする。